来年4月に新基準施行へ

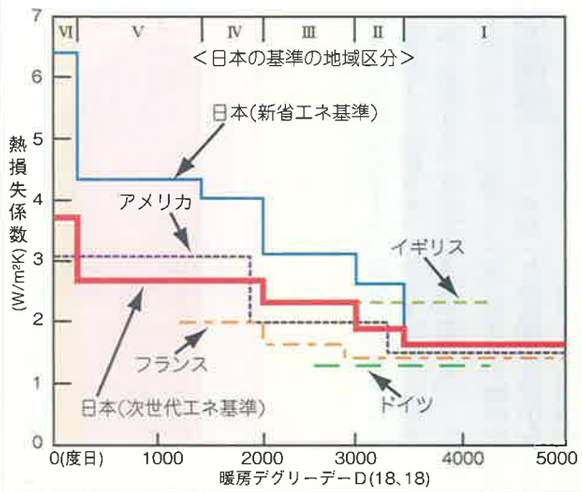
Q値は次世代並み

設備含め総エネ消費量抑制へ

次世代省エネ基準を改定する〝次々世代省エネ基準〟が、来年4月から施行されることがほぼ決まった。現在、委員会で内容を検討しており、早ければこの秋にも基準案が公表される見込みだ。

住宅分野の省エネルギー基準である次世代省エネ基準は、平成11年に発表されて以来、大きな変更なく現在に至っているが、その間に地球温暖化が世界的な環境問題として注目されるようになり、国内の住宅分野でも家庭部門のCO_2排出量の増加を背景に、よりいっそうの省エネ化とCO_2排出量の削減が急務となっている。

そこで国では地球温暖化防止が中心議題となった北海道洞爺湖サミットの開催に合わせて次世代省エネ基準の改定に着手。来年4月からの施行を目指し、基準策定が進められている。



欧米諸国と日本の省エネ基準の比較。新基準はQ値はそのままに、給湯や照明等も含めて住宅トータルのエネルギー消費量を抑制する方向で策定されそう

具体的な内容についてはまだ検討中だが、現時点で本紙が独自に収集した情報から推測すると、基準は義務化する項目と努力義務の項目の2つで構成され、注文住宅系、建売住宅系、共同住宅系などの事業者別に異なる基準を適用することになりそう。

すでに言われているように、暖冷房のほか、給湯、照明等も含めた住宅トータルのエネルギー消費を抑制するため、地域別に断熱・気密基準を設定したうえで、採用する各種熱源および暖冷房・給湯機器等に応じ、総エネルギー消費量を定められた数値以内に抑えるという考え方。

なお、断熱に関しては、I地域でQ値1・6Wなど次世代省エネ基準と同じ熱損失係数を設定する模様。

現時点で想定されている施行までのスケジュールとしては、8月中に基準の内容をほぼ固め、9～10月頃に基準案を公表してパブリックコメントを募集。その後、年末に告示、年明けに全国で講習会を開催し、4月1日施行となる予定。

審査の総評によると、「高性能な設備機器の設置を提案するものが多かったが、設備機器は耐用年数が短いため、初期性能が高くても長期的に性能を維持するための配慮に欠けているものは高い評価に結び付かなかった。住宅の長寿命化に向けた技術や工夫、取り組みが総合的に行われているプロジェクトや、設計上の工夫などを行っているプロジェクトを相対的に高く評価した」と評している。

なお、このモデル事業の第2回公募は8月1日㈮から始まる予定。

200年住宅モデル事業

北方型ECOに補助

全建連なども含め40件決定

新築一戸あたり最大200万円の補助が受けられる国土交通省の補助金交付事業「超長期住宅（200年住宅）先導的モデル事業」の第1回採択プロジェクトがこのほど発表され、道が北方型住宅のシステムを活用して提案・応募した北方型住宅ECOモデル事業を含む40件が選ばれた。

この事業は、先導的な技術や材料、システムの導入によって、住宅の長寿命化に貢献するプロジェクトを公募し、その中から評価が高いプロジェクトに対して国が一定金額の補助を行うもの。今年度から実施され、新築住宅であれば建設費の10％以内、最大200万円の補助金が受けられる。4月から5月にかけて行われた第1回募集では、603件の応募があり、この中には道が申請戸数400戸で応募した北方型住宅ECOモデル事業も1件として含まれていた。

採択された40件のうち、新築住宅部門は北方型住宅ECOモデル事業や㈱全国中小建築工事業団体連合会の全建連地域木造優良（ちきゅう）住宅先導システム国産材モデル提案などの29件（うち戸建住宅24件）が選ばれた。このほか既存住宅部門が4件、維持・流通部門が5件、技術検証・情報提供部門が2件となっている。

道内では、大手から中小まで97社が参加している北方型住宅ECOモデル事業については、耐久性・省エネ性の向上やサポートシステムなどによって、多くの住宅会社が特定の工法に縛られることなく安定した品質を確保できる取り組みを行っており、地域全体の住宅の長寿命化を促進する効果が高いと、評価された。

北海道住宅新聞
2008年7月15日
発行所 北海道住宅新聞社
〒001-0029 札幌市北区北29条西4-2-1-201
電話 011-736-9811
発行人 白井 康永
毎月 5・15・25日 発行
3,150円/月（送料込）
www.iesu.co.jp

今日の紙面

2～3面 洞爺湖サミット取材レポート～環境ショーケース、ゼロエミッションハウス
4面 黒アリ侵入の理由は…

住宅用高性能グラスウール SUN 太陽
暖ったかピンクの太陽さん

NITTOBO TOGAN ISO14001 認証取得
ニットーボー東岩株式会社
営業部 TEL.011-590-8800
http://www.nlttobotogan.jp/

外野席

北海道・洞爺湖サミットが終わった。せっかくの機会と考え、開催前にメディアセンターの取材に同行してきた。

今回のサミットは、海外メディアから「お金かけ過ぎ」「うわべだけのエコ」などと厳しい指摘が出ている。率直に言ってその批判は当たっていると思うが、また違った見方もある。遠方からの来客を温かく迎えるのは日本のよき伝統であるし、日常をガマンしても来客には喜んでもらいたいという気持ちはおもてなしの心だ。

ただ、お金の無駄遣いという指摘については、少し考えるところがある。サミットで節約してもほかで無駄遣いするかもしれない。それなら開催地・北海道にとって役に立つかたちで無駄遣いをしてほしかった。メディアセンターは仮設で、終了後は解体、ゼロエミッションハウスもどこに再建築するのかわからない。地元の事業も花でお迎えだから何も残らない。まあ維持費のかかる建築物を残されても困るという側面もあるが…。

高実績の当社にお任せ下さい！
木造住宅も計算書で『安心』
当社の構造計算は 正確 安価 迅速 にてご提供します。
J 建築システム株式会社
JAS構造サポート株式会社
札幌市南区南沢2条3丁目13-30 JASビル
東京事務所 東京都文京区本郷3-30-8 市村ビル2F
tel.011-573-7779・fax.011-573-7811
http://www.j-kenchiku.co.jp/

Sadolin
超撥水性・超耐候性
木部保護着色塗料 サドリン
油性 サドリン・ベース サドリン・クラシック サドリン・エキストラ
水性 サドリン・アクアベース サドリン・ティンバーテック
エコ サドリン・ソリッド

豊富な全29色（サドリン・クラシック） ※印刷は実際の色調とは異なる場合がありますので、ご注意下さい

資料をご請求下さい
発売元 GEN GEN 玄々化学工業株式会社
代理店 エイコー 高気密化資材の総合商社 株式会社 栄興
〒061-1144 北海道北広島市白樺町1丁目8-5
tel.011-373-4031 fax.011-373-0161
e-mail:k.k.eikou@kuh.biglobe.ne.jp